元気まち物語

2013.8

コバルトブルー下関 ライフセービングクラブ

豊北町角島の中央に位置するコバルトブルービーチ。車を降りて海岸に駆け寄ると、目の前に広がるのは、コバルトブルーの海と白い砂浜。そこには、コバルトブルー下関ライフセービングクラブの皆さんの、この海と海を訪れる人を守る頼もしい姿がありました。

海を訪れるすべての人のために

同クラブの設立は、ある人命救助がきっかけでした。「人が溺れている」と聞いたサーファーが、その人を助けたそうです。それから、サーファーがチームコバルトブルーとしてビーチの水面監視や救助活動をボランティアで始めました。

その後、平成24年1月にNPO(特定非営利活動)法人となり、現在の所属は社会人や大学生などの61人に。そのうち約45人がライフセーバーの資格保持者と、その取得率の高さに驚かされました。何とも心強いものです。

ライフセービングの基本は、「事故を起こさない」

「誰もが訪れやすい、美しい安全な海」にするため、海も人も守ることが活動の根底にあります。主な活動は海水浴場での監視・救助活動の他、ライフセーバー育成、水辺の清掃活動、ジュニアライフセービング教室、カッターレースのライフガードと幅広く展開しています。

「ライフセービング(救助活動)」＝「溺れた人を助ける」という印象が大きいのですが、何よりも大切なのは「事故を起こさない」こと。例えば「潮で遠くに流されてビーチに戻れないことがないよう誘導する」のもライフセービングの一つ。海では周りの人も一緒に流されるので景色が変わらず、流されていることに気付かないか、気付くのが遅れることはよくあるそうです。「早めに声を掛けて事故にならないよう防止するのが大事なんです」と副代表の磯部紘さん。自他の生命を大切に思う強い気持ちが、よく伝わってきました。

ライフセーバーからのメッセージ

6月29日、子ども会を中心に地域活動を行う青少年「ジュニアリーダー」とともにビーチクリーン(清掃活動)を行いました。危険なごみの説明をし、ケガのないようにごみを拾い集めた後は、きれいにしたビーチを歩きながら、水辺に潜む危険性を探しました。

最後に皆で一つの輪になった後、「皆さんにお願いがあります」とメンバーの山村匡史さん。「溺れている人を見つけても、泳いで助けに行かないこと。自分の命は自分で守ること。自然の危険性を知ること。そのうえで、目いっぱい楽しんでください！」

「第一に楽しんでほしい」その願いとともに、ライフセーバーは海を訪れる人の笑顔を守っています。

①「PAU(ハワイ語で終わり)」と、1日の無事故に感謝。
②ビーチクリーン後。海水浴シーズンは毎朝清掃を行います。
③ごみを拾うジュニアリーダーと磯部さん(左)と山村さん(右)。
④清掃後、貝を集めて、「つのしま」の文字を作成。
⑤メンバーとジュニアリーダーたちとの一枚。